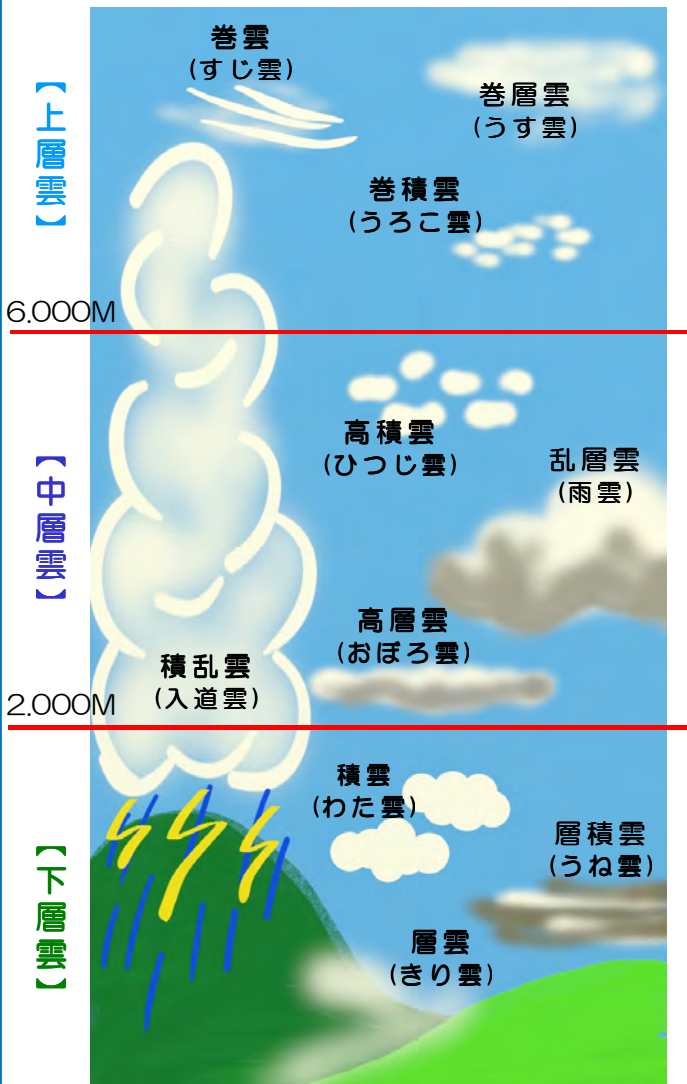




雲



自宅で過ごすことが多くなったこの頃、空を眺めて気分転換をしてみてもいいのではないでしょうか。青い空に浮かぶ白い雲、一面灰色の雲、いろいろな雲があることに気がきます。雲は大気中に浮かんでいる水滴や氷の結晶の集まりで、高さや形により10種類に分けられます。上層雲はほとんどが氷で出来ています。うす雲とうろこ雲は、低気圧が近づくと出来やすくなります。



ひつじ雲は、うろこ雲より地上から近い位置にあるので大きく見えます。夏によく見る入道雲はソフトクリームに似ていて「おいしそう!」と、思うのですが、実は危険な雲で、雷や竜巻、そして激しい雨をもたらします。

どれひとつ同じ形のない雲。偶然、神秘的な形をした雲を発見することも・・・あっという間に形が変わってしまいますので、写真に収めて後でコーヒーでも飲みながらじっくり見るのも楽しいかもしれません。



2018年自宅付近にて・・・珍しいと思い撮影しました。

セカンドライフサポートからの提案



休日を利用して、『家の点検』をしてみてもいいのではないでしょうか。

- ① 屋根・・・屋根材塗装の劣化、破損のチェック
- ② 外壁・・・日当たり面の紫外線による劣化、日陰面のコケやカビのチェック
- ③ 開口部、目地・・・窓廻り、外壁ジョイントのシーリング劣化、破損のチェック
- ④ 雨樋・・・落ち葉などの詰り、よじれ、破損のチェック
- ⑤ バルコニー・・・床の防水シート、手すり部材の劣化、破損のチェック
- ⑥ 基礎外周・・・基礎コンクリートのひび割れ、破損のチェック
- ⑦ 塀、擁壁・・・コンクリート、ブロックのひび割れ、破損のチェック
- ⑧ 小屋裏・・・天井裏のシミ、カビ、結露のチェック
- ⑨ 内装・・・壁や天井のシミ、クロスのはがれのチェック
- ⑩ 床下・・・湿気、カビ、シロアリ、配管のチェック

早めの修理で、大切なお住まいを守りましょう!!

セカンドライフサポート担当：高橋

水本グループ
介護支援スタッフが様々な情報をお届けします！

マスクの雑学



風薫る5月となり、1年の中でも過ごしやすい季節となりました・・・が、新型コロナウイルス感染症の流行により、今まで以上にマスクが必要となっています。私たちが必要とするマスク、いつ頃から作られるようになったのでしょうか。

日本でのマスクの歴史は、明治初期に始まります。当時は、真ちゅうの金網を芯に布地をフィルターとして取り付けたもので、主に炭鉱などで働いている人たちの粉塵よけに利用されていたそうです。

大正7年のインフルエンザ(スペイン風邪)大流行をきっかけに予防品として注目され、その後マスクの改良も徐々に進んでいきます。昭和25年には日本初のガーゼマスクが誕生し、昭和48年には不織布製プリーツ型の原型が生産・販売されるようになりました。現在では立体マスクなど種類も増えています。

最近はやや手に入りにくいのか、手作りされたマスクをしている方を見かけることが多くなってきました。



手作りが難しくても、ハンカチなどにゴムを通して簡易マスクとして使用することもできます。

この状況を乗り越え、皆さんが笑顔で安心して生活できる日が早く来る事を願っています。



ホットひと息



<編集後記>

あいさつ・・・

新年度が始まりました。黄色い帽子をかぶり、身体にはちよっぴり大きいランドセルを背負って登校する子供達は、すぐに一年生だとわかります。「おはようございます！」と元気な声であいさつされると、心地良い気持ちになります。我が家の息子の低い声に比べると、なんて可愛い！！うちの子もこんな時代があったなあ〜と、懐かしい気持ちになります。2〜3年経つと、ちよっぴり大人になり、恥ずかしさも生まれ、あいさつを交わすことがなくなります。これも成長の証です。

時が経ち再びあいさつを交わしてくれるようになるのは高校生になった頃。大人になったなあと思う瞬間です。

あいさつは、する側より、される側の方が印象に残りやすいとか・・・

「おはようございます！」一言で、相手も気持ち良い一日をスタートさせることができます。



株式会社 水本 セカンドライフサポート係
〒028-3615 岩手県紫波郡矢巾町南矢幅 6-606

お気軽にお電話ください。

TEL.019-697-1500